

この度、終活として最後の本を出しました。放射線を使用したがん治療に従事してきましたが、2011年3月の福島原発事故を機会に放射線の負の側面にも眼を向けるようにして졌습니다。10年間の政府・行政のデタラメな対応だけでなく、報道関係者・専門家・有識者・脱原発を叫ぶ人達など多くの人達も正しい知識で議論することも無く、今後の健康被害が憂慮されます。ここで今一度、[冷静に論理的に科学や医学の情報を整理して頂く一助となればと思い、謹呈させていただきます。ご笑覧頂ければ幸いです。

西尾 正道 拜 携帯：090-4870-7040

E-Mail：mnishio0505@forest.ocn.ne.jp

(市民のためのがん治療の会 (com-info.org) 『がん医療の今』 掲載原稿

No.439 20210316 自著『被曝インフォデミック』を語る

2021年3月11日は東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故という天災と人災が同時に絡んだ歴史上でも稀な事態から10年となった。本書のタイトルであるインフォデミックとは、“偽情報の拡散”という意味である。原発事故からの10年間はまさに放射線の健康被害に関してはインフォデミックの状態であった。放射線の人体影響に関するICRPの嘘だらけの理論を盲信して、ICRPの報告に詳しいだけの御用学者は無知な政府・行政に意見を具申し、それを根拠に国民に対しては、『安全・安心神話』を振り撒いてきた。戦争では『国敗れて、山河あり』だが、原発事故では、『汚染されれば、山河なし』なのであるが、帰還を促し、地域の復興だけが最優先された。そして健康影響に関しては人体の影響を評価する実効線量(シーベルト、Sv)というインチキな単位で議論して、多い・少ないと議論をしている。また深刻な内部被曝の問題は不問にされ、将来健康被害が出現しても全く分析できない状態となっている。医学では物理量の単位であるベクレル(Bq)と、放射線が当たった部位の吸収線量グレイ(Gy)しか使用することはなく、インチキなSvという単位は全く使用することはない。放射線は被ばくした細胞や部位・範囲にしか影響を受けないため、被曝部位の吸収線量だけが使用されている。このため、がんの放射線治療の歴史は、がん病巣にだけ照射し、病巣周囲の正常組織にはできるだけ照射しないで済む照射技術の工夫の歴史であった。Svで議論してきた不毛な10年間であり、今後もこの状態が続きそうである。

一方で、脱原発を叫ぶ人達もICRPの土俵上で、Svによる議論を行っている。また、がんの増殖に関するイロハも理解せず、原発の立場優先から小児甲状腺癌の多発を唱えている。これでは版原発の人達は信用を失うこととなる。正しい知識で判断してほしいものである。1個の細胞が半年~1年で発がんしたとしても、1cm(1g)=10億個の細胞数(2^{30})となるにはすべての細胞が30回細胞分裂して10億個となり、約1cm大の塊となる。最も細胞分裂の速い悪性リンパ腫でも1個が2個に分裂するには約1カ月かかる。腺癌のような比較的緩慢な経過の腫瘍では最低3カ月程度はかかるため、3カ月x30回分裂して1cm大となるには、約90カ月(7.5年)を要する。実際には腺癌の中でも最も緩慢な経過を辿る甲状腺乳頭がんは10年以上を要すると考えられる。現に私が放射線治療で経験した約3万人の中で、放射線誘発がんを生じた数例の症例は全て内部被曝を利用した治療例であり、また最短発がん期間は9年7カ月であった。1~2年で発見できるほどのサイズにはならないのである。例えていえば、生まれたての赤ん坊が1年で成人にはならないのと同じです。甲状腺がんの多発を叫ぶ人達も、がんの増殖に関する正しい知識を持って判断して頂ければと思う。

甲状腺がんは放射性ヨウ素が微粒子として甲状腺組織に取り込まれたことによる内部被曝そのものによる発がんであるが、被曝している部位のエネルギー分布では、放射性ヨウ素の微粒子と接している細胞は膨大な線量が当たっているために発がんするのである。これを外部被曝線量や実効線量や等価線量(Sv)で議論しているという間違っ議論をしているのである。

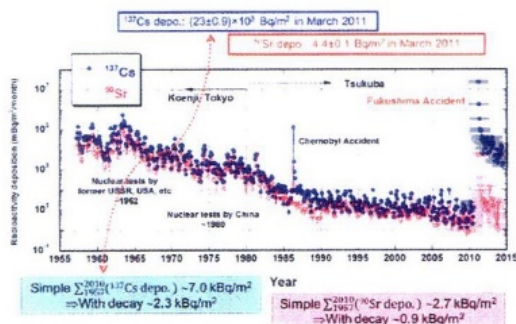
間違いを指摘すれば、誹謗・中傷とも言える姿勢で、個人的バッシングを浴びせてくる。冷静に科学的・医学的な議論を行う姿勢も無いことには呆れる。こうした10年間だったため、核兵器製造と原子力政策を推進するために嘘で構築されたICRPのインチキな放射線防護学(?)の土俵上で議論している愚行と、がんの増殖に関する知識を欠落した判断で甲状腺癌の多発を叫んでいる人達にも再考して頂ければと思い、10年間のデタラメな議論の状況をまとめ、今後の正しい議論の参考として頂ければと思い本書を出版することとした。なお出版業界の不況の中で、社会問題を取り上げて頂いている良心的な札幌市内の弱小出版社『寿郎社』の厳しい経営状態を支援するつもりで、「寿郎社」からの出版とした。私は制作費の一部を出資しただけでなく印税も放棄し、経営改善に寄与できればと思っている。是素皆さんが個人的レベルでも購入して頂ければ幸である。よろしくお願いたします。



ISBN978-4-909281-32-6
C0036 ¥1100E



定価:本体1100円+税
寿郎社



ICRP (国際放射線防護委員会)は研究機関でもなく、調査機関でもない。実際は単なる民間のNPO団体なのである。民間の組織は目的を持って活動するが、ICRPの目的は原子力政策の推進であり、国際的な「原子力ムラ」の一部なのである。米国の意向に沿って原子力政策を推進する立場で核兵器の規制などを行っているIAEA (国際原子力機関)やUNSCEAR (国連放射線影響科学委員会)などと手を組み、原子力政策を推進する上で支障のない内容で報告書を出しているのである。報告書作成に当たっては、各国の御用学者が会議に招聘され、都合のよい論文だけを採用して報告書は作られる。ICRP自体が調査したり研究したりすることはない。このためICRPは多くの医学論文で低線量被曝による健康被害が報告されても一切反論できず、無視する姿勢となっている。

被曝インフォデミック
トリチウム、内部被曝——ICRPによるエセ科学の拡散

被曝 インフォデミック

(独)国立病院機構
北海道がんセンター 名誉院長
西尾正道

トリチウム、内部被曝——ICRPによるエセ科学の拡散



西尾正道

原発事故後10年を経ても 放射線による健康被害は 軽視・無視され続けている。

政府のいうトリチウムの安全性、モニタリングポストの数値、被曝線量の単位シーベルトを信じてはならない——
〈内部被曝〉も利用したがんの放射線治療に
従事してきた医師による警告の書。

寿郎社
定価:本体1100円+税

2021.3.11.北海道新聞朝刊広告

福島、チェルノブイリの実態調査と(内部被曝)も利用した放射線科医としての40年の経験から放射線被害の(真実)を訴え続ける北海道がんセンター名誉院長の最新刊

被曝インフォデミック

トリチウム、内部被曝——ICRPによるエセ科学の拡散



原発事故後10年を経ても放射線による健康被害は軽視・無視され続けている。

政府のいうトリチウムの安全性、モニタリングポストの数値、被曝線量の単位シーベルトを信じてはならない——
〈内部被曝〉も利用したがんの放射線治療に従事してきた医師による警告の書。

原発事故後10年を経ても
コロナ禍のなかで
放射線による
健康被害は
軽視・無視
されつづけている。

ICRPが
恣意的に作り出した
シーベルト(Sv)という
被曝単位を
盲信するこの国の
原子力政策は
間違っている。

泊原発は廃炉に
しなければならない。
寿都町を核廃棄物の
最終処分場候補地に
してはならない。

(独)国立病院機構
北海道がんセンター 名誉院長
西尾正道 著

放射線治療医からの警告!

- 政府のいうトリチウムの安全性を信じてはならない。
- 福島のモニタリングポストの数値は低く抑えられている!
- 内部被曝の危険性は外部被曝の比ではない。
例えて言えば、外部被曝は薪ストーブにあたるようなもの。
内部被曝はそのストーブの燃え盛るまきを飲み込むこと。
- 漫画! 美味しんぼ。で描かれた鼻血の話は本当である。
放射性物質が鼻の粘膜につけば、鼻血は出る!
- ICRP (国際放射線防護委員会)は公的な機関ではなく、
(国際原子力ムラ)に忖度する民間のNPOである!

A5判 132頁
定価:本体1100円+税
978-4-909281-32-6
3月13日発売

「原発」の害がとどく(放射性物質)の恐ろしさを伝えるための本

北海道電力(泊原発)の問題は何か
北海道電力(泊原発)の問題は何か
北海道電力(泊原発)の問題は何か
北海道電力(泊原発)の問題は何か

泊原発とがん
大間原発と日本の未来

寿郎社
〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目 371 寿ビル
電話011-708-8565 FAX011-708-8566
mail: info@surousha.com https://www.surousha.com

購入用チラシ

放射線被害の〈真実〉を訴え続ける医師・西尾正道の最新刊

原発事故後10年をへてもコロナ禍のおかげで
放射線による健康被害は軽視・無視されつづけている――

(独)国立病院機構

北海道がんセンター 名誉院長

西尾正道 著

※「インフォデミック」とは
WHOによる造語で「偽情報の拡散」の意。
「ICRP」とは「国際放射線防護委員会」のことです

被曝インフォデミック

トリチウム、内部被曝——ICRPによるエセ科学の拡散

A5判 並製 132頁(カラー66頁) / 定価: 本体1100円+税(税込1210円) / ISBN978-4-909281-32-6 C0036 / 3月中旬刊

*本書には例えば以下のような衝撃的な事実が豊富な図表とともに載っています。

- ICRPが恣意的に作り出した被曝単位シーベルト(Sv)では本当の被曝線量はわからない!
- 内部被曝の危険性は外部被曝の比ではない。例えば、外部被曝がまきストーブにあたって暖をとっている状態ならば、内部被曝はそのストーブの燃え盛るまきを飲み込むこと!
- 漫画『美味しんぼ』で描かれた鼻血の話は本当である。放射性物質が鼻の粘膜につけば、鼻血は出る!
- ICRP=国際放射線防護委員会は公的な機関ではなく、〈国際原子カムラ〉に付する民間のNPOである!

【目次より】

第1章 棄民政策を続ける原子カムラの事故後の対応

数値で見る棄民政策

原子カムラの犯罪

第2章 放射線治療医として

放射線の基礎知識

放射線治療の進歩

内部被曝を利用した治療の実例

第3章 閾値と

ICRP(国際放射線防護委員会)の数値の欺瞞性

ICRPとはどんな組織か

ICRPのエセ科学のいくつかのポイント

最新の研究成果を取り入れないICRP

人体影響の評価についてのICRPの問題点

第4章 原発事故による放射線被曝を考える

低線量被曝による健康被害

チェルノブイリ事故との比較で考える

国際機関の動向(ICRPとECRR)

原発作業員と福島県民の被曝線量の問題

小児性甲状腺がんの問題

第5章 隠蔽され続ける内部被曝の恐ろしさ

福島第一原発事故による放射性微粒子の拡散

内部被曝のエネルギー分布

食品の汚染の問題

内部被曝に関する最近の知見

第6章 長寿命放射性元素体内取り込み症候群について

日本人の死因の移り変わり

「長寿命放射性元素体内取り込み症候群」とは何か

第7章 トリチウムの健康被害について

トリチウム(tritium, T=3H)とは何か

自然界でのトリチウムの移行過程と濃縮

トリチウムの人体影響

原発稼働による周辺住民の健康被害の報告

トリチウムは世界中で垂れ流し

西尾正道 (にしお・まさみち)

1947年生まれ。函館市出身。札幌医科大学卒業。74年国立札幌病院・北海道地方がんセンター(現・北海道がんセンター)放射線科勤務。2008年4月同センター院長、13年4月から名誉院長。

日本医学放射線学会(放射線治療専門医)、日本放射線腫瘍学会名誉会員、日本頭頸部癌学会名誉会員、日本食道学会特別会員、「市民のためのがん治療の会」顧問。

著書に『がんの放射線治療』(日本評論社)、『放射線治療医の本音——がん患者2万人と向き合って』(NHK出版)、『放射線健康障害の真実』(がん患者3万人と向き合った医師が語る正直ながんのはなし)『患者よ、がんを賢く闘え! 放射線の光と闇』(以上、旬報社)、『被ばく列島』(小出裕章氏との共著、KADOKAWA)などがある。



本書は全国どこの書店からでも注文できます。また、下の注文書で出版元に直接注文することもできます。その際には1冊300円の送料が別途かかりますが、2冊以上のご注文の場合は送料無料となります。さらに一度に10冊以上ご注文の場合は定価1210円(税込)を税込価格で1冊1000円とさせていただきますのでぜひご利用下さい(委託は不可)。【注文書の送り先】FAXの場合: 011-708-8566 / メールの場合: doi@jurousha.com / 郵送の場合: 〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目37山京ビル 寿郎社宛 【代金の支払方法】本と一緒に請求書と郵便振替用紙をお送りさせていただきますので、到着後、1週間以内に最寄りの郵便局から代金をお振り込み下さい。

注文票

寿郎社発行 地方・小出版流通センター取扱品

西尾正道『被曝インフォデミック』を 冊注文します。

●お名前

●郵便番号

-

●ご住所

●電話番号

() -

【出版元】 寿郎社 〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目37山京ビル 電話011-708-8565 FAX011-708-8566 doi@jurousha.com